

### 第3回 沼津市総合教育会議 議事録

- 開催日時 平成27年9月3日（木曜日）15時00分～16時30分
- 開催場所 サンウェルぬまづ 2階 大会議室
- 出席者 市長 栗原 裕康  
教育委員長 久松 但  
教育委員 三好 勝晴  
教育委員 土屋 葉子  
教育長 工藤 達朗

#### ○ 協議・調整事項

- (1) 教育に関する大綱の策定について
- (2) 重点施策について
- (3) その他

#### 【内容】

##### 1 開会

##### 2 市長挨拶

本日は、第3回目の沼津市総合教育会議となりますが、教育委員の皆様方には、お忙しい中ご出席いただき、また、毎回熱心にご議論いただき、ありがとうございます。心から感謝申し上げます。

本会議にて議論していただいております教育大綱は、法改正によって、市長が策定することとなっています。前回、たたき台としてお示しし、皆様方から真摯なご意見をいただきましたので、加味させていただき、修正した部分がございます。本日は、まず、その教育大綱について議論していただき、その後、最も重要な具体的な重点施策について十分に議論していただき、本市の教育を前進させていただきたいと思っています。

よろしく願いいたします。

##### 3 協議・調整事項

###### (1) 教育に関する大綱の策定について

前回の協議を受けて修正した箇所について政策企画課長が説明した後、市長が補足説明。

(市長)

基本的な方策の4点目について、「沼津という言葉が入っていない、入れたらどうか。」というご意見をいただいた。諸外国を見ると、自分の住んでいるまちを徹底的に愛するような教育を行う例があり、私自身も、沼津をもっと愛するような教育をすべきだと市民の方から厳しいご意見をいただいたことがある。しかし、自然に沼津を愛するようになるのは大歓迎だが、私の性格として人様に押し付けるようなことはしたくないと考えている。

現在は、沼津に生まれて、沼津で育ち、沼津で生涯を終える人は少ないので、そのような意味で、『住んだところ』『住んでいるところ』『住むであろうところ』という部分に沼津という言葉を入れていないことにご理解いただきたい。

(委員)

前回の議論を経て修正した内容に対して意見があるわけではないが、私は、人は根っこの部分が大事で、心の拠り所を子どもの頃からしっかり持っているべきだと思っている。根っこ・心の拠り所を持って羽ばたいてほしいという思いが、この部分に含まれているのだと理解している。

また、基本的な方向性の「沼津の地理的特性、『田舎の良さと都会的な良さ』」という部分に関しては、市長の強い思いを感じる。

(委員)

沼津を離れたときに、如何に良い所だったか気付いてもらえたら良いと思う。具体的な施策ではないが、戻ってきたいという気持ちになれるような教育ができれば素晴らしい。

(委員)

今後、教育大綱については、広報紙等で周知し、11月にはパブリック・コメントの募集を行う予定であるため、今日の会議で大綱案を決める必要がある。基本的に、大綱は市長が策定することになっており、前回の協議を基に修正した大綱であるので、特段意見がないようであれば、このままで良いのではないかと。

(教育長)

教育大綱の策定に当たり、市長が「沼津市教育基本構想」をよく読んで、このような方向性・方策を策定していただいたことは、大変有り難いと思っている。非常にわかりやすく、学校教育だけでなく、子どもから大人までを対象とした教育の大綱として、市長の思いが市全体に広がれば良いと思う。

本日は、多くの小中学校の先生方に傍聴に来ていただいているので、この思いをよく理解していただいて、子どもたちにも伝われば良い。

(政策企画課長)

本日、お示しの大綱案については、11月～12月を目途にパブリック・コメントを実施し、市民の皆様から意見を募集する。その後、来年2月に開催予定の第4回総合教育会議において、最終的な大綱をお示しする予定となっている。

## (2) 重点施策について

(市長)

重点施策として、主に3つの施策について、ご議論いただきたい。

一つ目として、教育大綱の基本的な方策に「コミュニケーション能力の向上を図り、国際感覚を豊かにする教育」と掲げた。本市では、約10年にわたり言語教育を行っているが、学力調査の結果が突出しているとは言えない。

市内企業の経営者に話を聞くと、人口減少社会において、特に製造業では、この先海外にビジネスチャンスを求めていく機会が多くなり、そのためには、英語が必要となり、英語を話せる人材を求めているが、適した人材がないと言う。中学3年生の英検3級の取得率が、本市では約25%で、ここ数年間で3%くらい増えたようだが、本当にこのままで良いのかという疑問もある。もっと高い目標を掲げ、「沼津の義務教育では、英語力が非常に伸びている」ということが発信できれば大きなインパクトになるのではないかと考えている。

二つ目は、本市の教育の良さとして、地域とのつながりが強いという点が挙げられる。子どもたちが積極的に地域の行事に参加し、地域の方もそれを見守って支えてくれているという特色がある。しかし、学校現場では、地域の皆様が見守ってくれている反面、逆に作用する人もいと伺っている。今後、高齢化社会が進展する中、元気はあるが自分の生きがいを見出せないお年寄りが増えてくる可能性があるため、その方々の力もお借りして、地域と学校とが今まで以上に密接に連携して、結果として、現場の教師の肉体的・精神的負担が軽減されれば三方両得になるのではないかと考えている。

三つ目は、8月23日に高校生による「高校生しゃべり場 in ぬまづ」が開催され、「どのように沼津を全国に発信するか」をテーマに、非常に活発な議論が展開された。本市は、交通の結節点として高校数が多く、沼津市外から通っている生徒も多い。その高校生に、本市のまちづくりや行事に積極的に参加してもらうことで思い出を深めてもらって、帰ってきたいと思ってもらえるようつなげていきたい。ほとんどの高校は県立もしくは私立なので、今まで市の教育委員会はあまり関与して来なかったのだが、積極的に要請していくことができないかという問題意識から提案させていただいた。

(委員)

英語は学問ではなく、コミュニケーションを取る、相手に考えを伝える手段なので、それに小さい頃から触れるということは、国際社会に出ていく上で必要なことだと思う。その英語教育の成果を目に見える形に表すとなると、中学校で英検3級を取得することが1つの基準となる。

また、日本人同士の英会話ではなく、直接外国の方と接することが重要で、富士

山が世界遺産に登録され、海外から多くの方が沼津にも来ていることから、ホームステイや留学などを通じて、本場の英語と触れ合うことが大切だと思う。そこを施策として、予算が使えると良い。

(委員)

子どもは、外国の方と接点を持つと、言葉が通じていなくても意思を確かめ合い、なんとなくわかり合っているような感じがする。以前、ホームステイを受け入れた際、自分の子どもと同じくらいの年齢の子どもがいて、子ども同士で楽しそうに遊んでいた。そのような機会があれば、英語の必要性も感じられるし、もっと話せるようになりたいと自ら思うようになると思うので、ALTと接する時間を増やしてあげたいと思う。

また、子どもだけでなく大人も英語が話せるよう、私もこれから頑張りたいと思う。余談だが、医学的な話で、2か国語以上話せる人は認知症になる確率がかなり低いそうなので、その意味でも頑張りたい。

(委員)

英語教育だけを重点施策として取り上げると、母国語の日本語が疎かにされてしまうような懸念も出てくる。英語を重視する前提として、日本語の教育もしっかり行うことをPRすることも重要だと思う。

(教育長)

英検の取得は、英語を勉強する子どもたちにとって一つの励みになる。現在の中学3年生は、小学1年生から言語教育特区で英語の時間を設けており、本市の英検3級以上の取得率約25%は、近隣市町と比較して比較的高く、これは言語教育の成果だと考えている。3級は、読む、書く、話す、の3つが要求され、3級以上を取得すると高校入学においても良い評価につながる。この取得率が例えば、50%くらいに上がれば、かなりのインパクトにつながるのではないかと。ただ、受験料や試験会場等の問題もあるため、多くの子どもたちに受験してもらうためには、市で補助をして、子どもたちに自信を持たせ、励みになるような施策をしていただけると有り難いと思う。

また、直に外国人、英語に触れるという面で、ALTと触れ合う時間を設けているが、それをもっと広げ、キャンプやその他の施設でALTと一緒に宿泊体験をしたり、頑張る子どもには、海外へ留学させてあげたりと、補助をしながら英語に直接触れる機会を設けてあげたいと思う。

ただし、先ほど委員からもご意見があったように、国語は重要なのでバランスの取れた教育を行っていきたい。

(委員)

実際に補助金として、市全体ではどの程度かかるものなのか。

(教育長)

例えば、英検の受験料を補助した場合、市内中学校の1学年約1700人の受験に

対し、1000 円は自己負担として、1800 円を市で補助すると、約 300 万円かかる計算になる。

(市長)

今後、より多くの外国人の来沼が見込まれるため、例えば、駅までの道のりを英語で聞かれたときに、少なくとも英語で答えられるくらいのレベルにはしたい。

しかし、子どもたちが英語でコミュニケーションを取れるようにするということは、文科省でも研究中のかなり難しいテーマなので、簡単にできることではない。いずれにしても、約 10 年間やってきた言語教育の総括、成果と反省点の検証をすることが大事だと思う。英語と言えば沼津と、近隣市町から英語を学ばせたいから沼津に行く、子育ては長泉だが小中学校は沼津だと言われるくらい、しっかり検証することが必要だと思う。

なお、英語については、専門的な知見も必要になるので、総論として、特に義務教育で英語力を向上させるということに異論がなければ、今後、最善の方法を検討していくということにしたいと思う。

(委員)

ここまで国際化の波が来ていると英語の必要性は否定できない。市民にもそのような認識があると思うので、ご理解をいただきながら進めていく必要がある。

(委員)

学校と地域との連携については、教育委員会で、何度か学校を訪問して、地域の方々から小学 3 年生を対象に勉強を教える放課後学習の見学をさせていただき、とても良い取組だと思った。他の学年にも広げていくことができないのか。

(市長)

授業についていけない子どもを対象として、地元の教員 O B の方々に勉強を見ていただいたり、最近、千本地区では、土曜日に寺子屋を開催して勉強を教えてくださいと、様々な場面で地域の方々にご協力いただいている。前回の会議では、軽度発達障害の話が出て、授業に集中できない子どもたちの状況や支援員の数が不足しているという指摘を受けた。これに関しても、可能であれば地元の方々にご協力いただければ大変有り難いと思う。各学校の校長先生方は、子どもたちに対して地域の行事に出るよう指導しているだろうし、自治会の方に協力していただきたいことをお願いしている現状があるのかもしれないが、そのような現場の状況を私が把握しきれていないので、皆様にご意見をいただいて、例えばモデル地区をいくつか作って、良ければ他の地域へと広げるような取組を進めていきたいと考えている。

現場の先生方がかなり汲々としているという声は聞こえているので、地域の皆様が協力していただければ、現場の先生方が余裕を持って子どもと接することができるのではないかと考えている。

(委員)

第 5 地区で「おやじの会」という会を立ち上げて約 10 年になるが、学校の校長

先生からは、有り難い活動だと言っていた。PTAの組織とは全く別の組織で、日常の先生方の直接の手助けにはならないが、学校の雰囲気や学校生活の環境を穏やかにするという意味で、少しは手助けになっていると思う。

学校が描いている方向性を市が拾って、地域へ投げかけるというキャッチボールができる環境づくりを今まで以上に積極的に行っていく必要があると思う。

(委員)

大岡地区で、地域の子どもたちを対象に茶道教室を年1～2回くらい行っている団体があることを最近知った。勉強だけではなく、地域と学校間の接点を作ることは重要なことだと思う。地域には茶道に限らず、得意にしている方々がいると思うので、その方々の協力を得ることが可能ではないか。

(市長)

子供会の役員やPTAの役員が重なり、特に共働きのご両親にとって、大変大きな負担となるケースがある。しかし、元気な祖父母に対して、そのような負担は及ばないので、共働きが増えている現代社会において、今後の組織のあり方についても検討の余地はあると思う。

元気なお年寄りの方々に生きがいを持って子どもに接してもらうため、どのような取組・仕組づくりが可能か考える場合に、受ける側の学校は実際にどう考えるのか。

(教育長)

小学3年生を対象とした放課後学習は、地域の方々の協力を得て行っており、基本的に学校の教員はほとんど関与せず勉強を教えていただけなので、大変助かっている。このため、この取組を他の学年にも広げたいという学校も多く、実際に広げている学校もある。また、勉強以外にも、先ほど委員から話のあった茶道や農業、昔の遊びなどを地域の方々が教えてくださっている。これも基本的に、学校は関与しないので、多忙な教員の負担軽減につながっている。しかし、地域で積極的にやっていただける方がいないとできないという難しさもある。

(委員)

特に小学校は、自治会と接点があるので、意見を交わすような機会もあると思う。学校側から自治会に対して、回覧板等で募集を依頼することも可能だと思う。

(委員)

近年、地域の祭りなどの行事をやめてしまう地域が少なくない。しかし、その面倒なことこそ価値があるということを大人が認識しなければならないと思う。行政から地域の行事を続けるよう、自治会に要請することは難しいかもしれないが、学校が地域を通じて子どもたちの情操教育に重要なことだと訴えていく必要があると思う。自分が子どもの頃にやってもらったことは覚えているものなので、そのような働きかけをしてほしい。

(市長)

P T Aに祖父母が参加することはできないのか。

(教育長)

組織の役員になることはできないと思うが、行事に参加することはできる。

(市長)

日本の生産年齢人口が減少する中、共働きが増えてきており、善し悪しは別として、かつての父は仕事、母は家庭を守るという発想は崩れている。そのような社会において、今までのようなP T Aや子供会を維持していくことそのものに無理があるのではないかとも思っている。逆に、今までにはなかったが、祖父母を学校にどう結び付けていくかを研究することも必要なのではないか。

(委員)

定年退職した私の元気な同級生のうち、自分のことだけに時間を費やしている方々が非常に多い。それを少し地域の子どものために譲っていただけるような方策ができればお願いしたい。

(委員)

高校生の活躍について、3年前から「高校生しゃべり場 in ぬまづ」が始まり、非常に良い取組だと思っている。高校が13校もある地域は少ないので、行政をあげてバックアップしていただきたい。地域との連携という意味においても、高校生に色々な行事に参加してもらうことは大事だと思うし、放課後、高校生が子どもたちを見ることができればすばらしい。子どもたちと接することで、心の交流ができ、心が落ち着くという効果もあるようなので、高校生にとっても良いことだと思う。

(委員)

しゃべり場をケーブルテレビで放送することはできないか。市で少し予算をつけて、市民の皆様が見られるようにしてはどうか。

(生涯学習課長)

現在のところ、依頼をしたことはないが、今後、活動を広げていくためにはそのようなP Rも検討していきたい。

今年で3回目となる「高校生しゃべり場 in ぬまづ」の成果としては、第1回の有志のメンバーが集まって高校生として知りたいこと、また、高校生に知らせたいことを取材して、高校生目線の広報紙「ぬまづたぶろいど。」を作成している。具体的な内容としては、沼津のお店の紹介やイベント情報、文化祭の活動内容などをイベントカレンダーにして、各学期1部ずつ発行している。

また、昨年度末には、駅前の雄大グループの店舗のステージを借りて、バンド、ダンス、カラオケの3部門からなるハイスクールフェスティバルを開催した。高校生の手で企画し、自分たちで各高校に出場の呼びかけを行い、平日の昼間にもかかわらず、多くの人が集まり大盛況をいただいた。

高校生が自発的にもっと何かできないか考え、企画し、活動の輪が広がっている。

(教育長)

飛龍の太鼓や西高の琴など、現在までも様々な行事で活躍してくれているが、現在は、その活動を広げるための仕組みがないので、組織立てをして動き出すことができれば良いと思っている。

(委員)

いくつかの学校の高校生が集まって一つのことをやるという取組自体、今まではあまりなかったように思う。色々な高校が接するような機会を作ってあげれば活動が広がるのではないか。

(委員)

しゃべり場のメンバーには、沼津在住ではない高校生が多く、沼津のことを非常に冷静に分析して、どうすればもっと良くなるのかを真剣に考えてくれていた。このような活動は、若い人の活力を吸収する良い手段なので、各学校代表者を増やし、2～3人ずつくらい募集してもいいのではないか。

(市長)

本市では新成人議会を開催しており、初回に出ていただいた方は35歳になる。しかし、単年度でやっているのので、その後のフォローができていない。続けることが重要で、新成人議会もしっかりしたフォローがあれば、今頃は様々なつながりができていたと思うので、それをフォローする施策を考えなければならない。

(委員)

高校生の活躍については、現在行っているしゃべり場の活動などを発展させていく施策を考えていく必要がある。

### (3) その他

(委員)

重点施策に近い内容だが、全国的に人口減少、少子化が進行しており、本市でも数年先には、全校で30～40人しかいないような小学校の発生も予想される。複式学級は、子ども同士の切磋琢磨や教員確保等の課題があり、子どもたちにとって大きな問題だと考えている。

また、昨年4月に静浦小中一貫学校が開校して1年以上が経過したが、中1ギャップが解消されたり、学校が荒れなくなったなど様々な成果が出てきている。国でもそのような舵取りをしようとしていると思うのだが、そのようなことを含めて、今後の学校施設のあり方についてどう考えているのか。

(教育長)

静浦地区で3小学校、1中学校を統合した背景として、複式学級の発生を避け、発展的に教育環境を整備する検討を行った中で、小中一貫学校を選択した経緯がある。先生方も非常に頑張ってくれて良い成果が出ているものと考えている。

本市の学校においては、児童生徒数が減少している地域と増加している地域とがあるが、今後の学校施設のあり方を考えると、統合もしくは小中一貫校を検討する学校が出てくる。しかし、これには時間がかかり、静浦小中一貫学校では開校までに約10年かかった。

また、10年後の児童生徒数の推定では、中学校で単学級になる学校が増えるため、教科担任制の教員が揃わない可能性がある。小学校では複式学級が出てくる可能性もある。そのようなことを考えると今から早急に対策を練っていかねばならないと考えている。

教育委員会としては、今年度中に検討会を開催して基本的な方針を決定し、来年度以降、具体的な方向性を検討する委員会等を立ち上げていきたいと考えている。地域のご理解を得ながら進めていきたい。

(市長)

他市の事例として、伊豆市では、伝統ある井上靖さんの母校を廃校にするなど、地域住民の強い反対もあったようだが、統合を進めて現在は落ち着いている。施設の統廃合は小中学校だけの問題だけではなく、公共施設は今後ますます老朽化していく。これらの施設は、最も人口の多い時代に合わせて作られていることから、当然、すべての施設を建替えることはできず、長寿命化や統廃合を行うことになる。その中で教育施設だけを別に考えることは難しい。市民の皆様からすると相当な抵抗感があると思う。

(委員)

仕事上、市の人口推計を見ることがあり、年齢別に見ればどの部分が少なくなるかわかるし、何より児童生徒数の減少について、地域の方々はよくわかっている。磐田市においても一貫校の整備を進めるとの新聞報道もあった。静浦小中一貫学校の隣を通る度に、このような環境で学ぶことができるのは恵まれていると思う。児童生徒が減少して複式学級になるよりも、静浦のように小中一貫学校になった方が活気もあって良いと思う。

(委員)

インターネットとの関わり方について、最近では、大人の社会でも子どもの社会でも切り離せないものになっている。情報伝達的手段として、大人は非常に便利に利用しているし、子どもには子どもの使い方がある。情報化社会、インターネット社会であることの強い認識と、子どもたちの関係性を認識して、我々大人の中から子どもたちの知識を圧倒するくらいの集団を作ると良いと思う。そして、インターネットにおける犯罪に切り込んでいけるような姿勢を大人が持って、インターネットに関しては沼津が進んでいると言われるくらいの認識を持つことが必要なのではないか。

(教育長)

インターネットが絡んだ様々な事件が子どもたちの間でも起こっている。光が強

ければ強いほど影の部分が暗くなる様に、便利なものではあるが、子どもたちにとってどれほど必要かということには疑問もある。青少年問題協議会でも具体的な協議をしていて、生涯学習課を中心に議論を進めているところだが、教育現場での一番の問題は、目に見えないところで問題が進行し、見えたときには既に問題行動が起きているというところだと思う。P T Aからは9時以降携帯電話を使わないようにしようという話も出ているが、学校と家庭が連携して取り組まなければならない、避けて通れない問題なので、教育委員会、学校、P T Aが協力していく必要がある。

(委員)

学校だけでなく、家庭も絡む難しい問題なので全市的に取り組んでいただきたい。

#### 4 閉会